

実績報告書

届出者	住所	大阪市城東区今福西2-4-7	氏名	牛乳石鹼共進社(株) 代表取締役社長 宮崎 悌二
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、化粧石鹼、化粧品等製造販売を行っており、大阪府内には本社と安田工場・総合研究所があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,053 t-CO ₂	3,755 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	4,312 t-CO ₂	4,011 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率 (原単位ベース)	3 %	1.9 %	9.7 %
削減率 (平準化補正ベース)		－ %	1.3 %	9.1 %	9.9 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>例年おこなっているクールビズ、ウォームビズを実施し、社員への意識づけを継続しておこなった。平成26年4月より、石鹼廃液からバイオガスを抽出し、バイオガスボイラで燃焼させる設備が設計能力へ到達したことにより、都市ガスの使用量が継続して削減できた。</p> <p>平成26～28年の3ヵ年をかけて、安田工場で液体製品の生産工程で使用する冷凍機を従来のもより効率の良い吸収冷凍機に更新し、また電力のピークカットをはかるため、ガスコージェネレーションシステムも構成を変えて更新した。</p> <p>平成27年、本社では空調機の更新を、平成28年には安田工場で電灯のLED化、高効率な空調機への更新、貫流ボイラー7台中3台の超高効率機への更新をおこなった。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> 改正省エネ法に基づき、特定事業者、および第二種エネルギー管理指定工場の指定を受けました。 エネルギー管理統括者、エネルギー企画推進者を中心に、より一層省エネに努めて改善を図ります。 C S R委員会を通じて、日常の企業活動のなかで省エネ活動を推進します。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全事業所	コード (1113)	適正冷暖房の徹底をした。 クールビズ・ウォームビズ	26 年度 ～ 28 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	全事業所	コード (1113)	不要な場所、時間帯における照明消灯、 パソコン等事務用機器の不要時電源切断 の徹底をした。	26 年度 ～ 28 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	安田工場	コード (1123)	ガスコージェネ、冷凍機の更新に伴い、 工場内の効率的なエネルギー利用を目指す。 平成26年度末、平成27年度末、冷凍機（蒸 気・温水吸収冷凍機）それぞれ1台導入済 み	26 年度 ～ 28 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	総合研究所	コード (1218)	蛍光灯をLEDへ更新	27 年度 ～ 0 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	本社	コード (1218)	蛍光灯をLEDへ更新	27 年度 ～ 0 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	安田工場	コード (1218)	蛍光灯をLEDへ更新	28 年度 ～ 0 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	安田工場	コード (5111)	エアコンの更新	28 年度 ～ 0 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	安田工場	コード (1211)	貫流ボイラー（7台中3台）の更新	28 年度 ～ 0 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全事業所	コード (2123)	エコドライブを推進した。 エコドライブを実施する。	26 年度 ～ 28 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市岸部中2-17-2	氏名	共同リネンサプライ㈱大阪支店 代表取締役社長 五十嵐 昌治
特定事業者の主たる業種		78洗濯・理容・美容・浴場業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテルリネン（シーツ、タオル等）の洗浄及びレンタル業、関西で4つの（工場）事業所にて展開		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,358 t-CO ₂	8,282 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,626 t-CO ₂	8,581 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-5.6 %	-9.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-6 %	-9.6 %	-12.6 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>新たに新規得意の受注及び増床、また高品質素材リネン品の増加で生産効率低下の要因となっており、時間と手間がかかる事でエネルギー使用量増加の原因となっている。生産については各工場生産の偏りとならない様に、4工場での生産配分を引き続き継続し、生産の平均化を図ると共に、機械設備の更新も順次進めていく。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

グループ会社を含む全社で毎年社内目標計画書を作成し、共同リネンサプライとしては関東（東京本社）と一括管理を行い、温暖化対策及び光熱費削減に取り組んでいます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	池田工場	コード (1217) 26年6月実施 済み	H26年2月に導入した高効率機器（ボイラー2 t 貫流式1台増設、120kgの乾燥機、30k gワッシャー、コンプレッサー22kw2台の 追加及びロール機器）の継続利用による省エ ネ	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1218) 工場内蛍光灯 のLED化	設備老朽化機器の更新及び工場内蛍光灯 のLED化に変更予定（平成27年度を 目標に進める）	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	十三工場	コード (1218) 26年11月実施 済み	平成26年度内に工場内蛍光灯を全てL ED化に変更	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全工場	コード (1199) 作業配分の見 直しによる効 率改善	4工場にて作業配分を行い、効率化を図 る。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	池田工場	コード (1218) 28年	工場内一部室内灯のLED化	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	池田工場	コード (5221) 28年3月更 新済み	2t 還流式ボイラー2台更新	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	十三工場	コード (5221) 28年11月 更新済み	既設2t 還流式ボイラー2台を1t 還流式 4台へ更新し、台数制御を行い、効率化 を図る。	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	池田工場	コード (1299) 29年2月更 新済み	現状使用中のロールアイロナーを高効率 ロールアイロナーに更新（平成28年1 1月予定）	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1299) 29年2月更 新済み	現状使用中のロールアイロナーを大型高 効率ロールアイロナーに更新（平成28 年11月予定）	26 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	池田工場	コード (0) 乾燥機更新及 びロールアイ ロナー新設	現在使用中の60kg 蒸気乾燥器を高効 率120kg に更新及び増産体制による 高効率ロールアイロナー新設予定（29 年11月予定）	29 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	十三工場	コード (0) 既設コンプ レッサー更新	既設コンプレッサー33kw2台の更新 予定（29年11月予定）	29 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	吹田工場	コード (0) 使用目的及び 走行距離管理	営業者の給油管理及び走行距離の把握を 使用時にチェック記録簿による記録管 理。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3)その他の抑制対策
